

平成2年4月



消防艇 第5川崎丸

◎川崎市



● 操
舵
室 ●



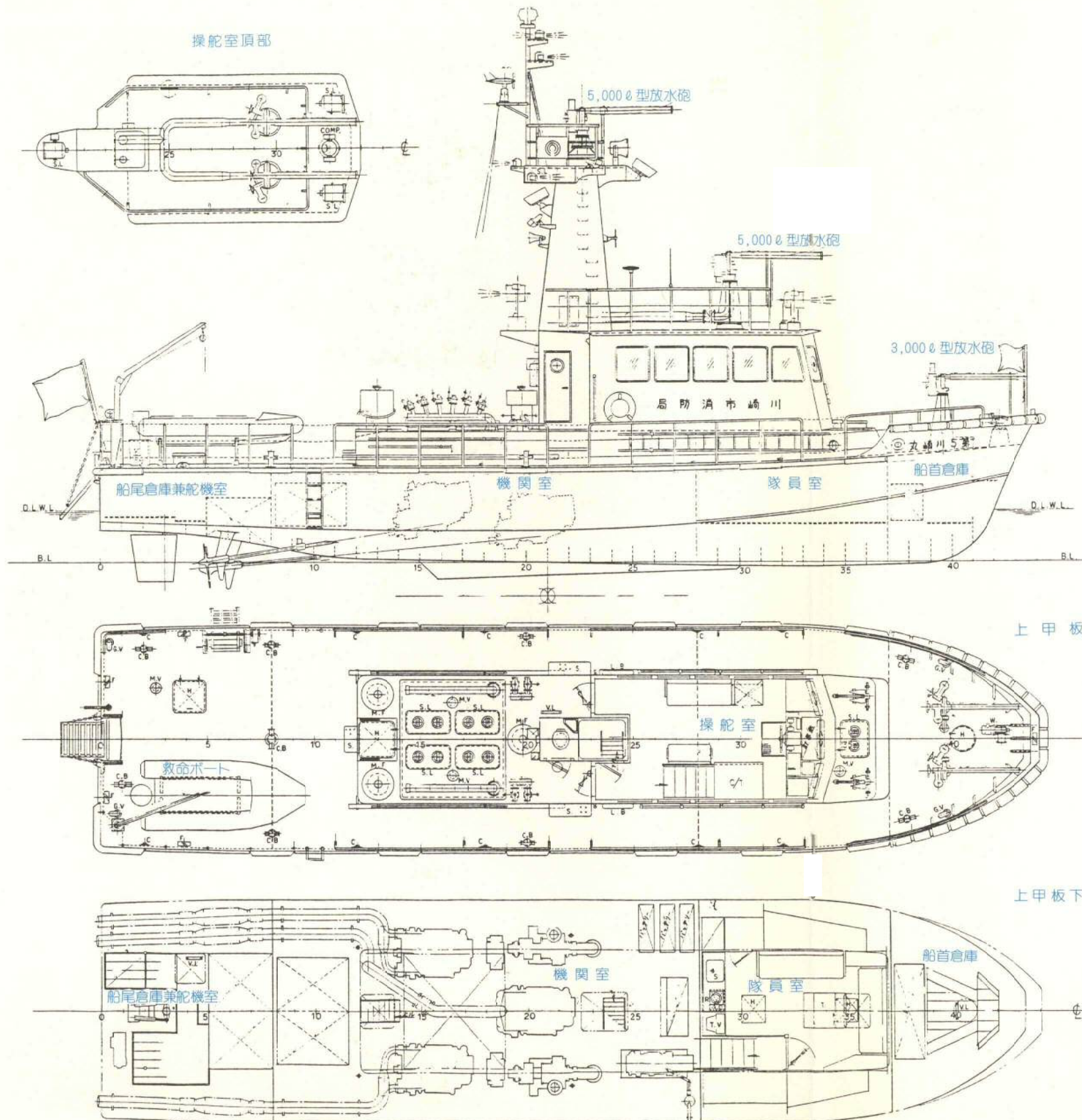
● 機
関
室 ●



● 隊
員
室 ●



配置図



主要要目

長さ (全長)	22.00メートル	
〃 (水線長)	21.00メートル	
幅 (型)	5.20メートル	
深さ (型)	2.20メートル	
計画満載喫水	1.20メートル	
総トン数	36トン	
速 力	巡航	17.5ノット
	最大	20.2ノット
主 機 関	高速	ディーゼル機関
	600PS × 2, 170rpm × 3基	
最大とう載人員	船員	その他
	航行時間 24 時間未満	5名 8名
	〃 1.5 〃	5名 18名
航行区域	平 水	

要 目

1 船 体

全 長	22.00メートル
最大幅	5.20メートル
深 さ	2.20メートル
総トン数	36トン
船 質	耐候性高張力鋼、一部耐食アルミ
船 型	V 型
航行区域	平水区域
速力及び航続時間	
巡航	17.5ノット(約32.5 km/h)
	8時間以上
最大とう載人員	
船 員	5名
その他	8名
	(航行予定時間24時間未満)
〃	18名
	(航行予定時間1.5時間未満)

2 機 関

主機関 (2サイクル高速ディーゼル機関)	
中央機	1基
	GM8V-92TA・600PS×2, 170rpm
両舷機	
	GM8V-92TA・600PS×2, 170rpm
補機関 (4サイクル高速ディーゼル機関)	
定格	39PS×1, 800rpm 1基
推進器	
中央 3翼可変ピッチプロペラ	1基
両舷 3翼固定ピッチプロペラ	2基
タンク類	
燃料タンク	1,700リットル 2個
泡原液タンク	2,000リットル 2個
油処理剤タンク	1,000リットル 1個
雑用清水タンク	300リットル 1個
飲料水タンク	200リットル 1個

3 航海設備

操舵機 電動油圧式	1式
電動ウインチ(巻揚荷重 300kg)	1基
音響測深機 0~400m	1式
マリンレーダー	
	約30m~72マイル(115km) 1基

風向風速計	1式
紅色閃光灯	1式
航海灯	1式
発電機 30kVA	1基
冷暖房設備	1式
油水分離機	1基
磁気コンパス(反射型)	1基

4 消防装備

消防ポンプ	
11,000リットル/分	2基
最大放水量	22,000リットル/分
放水砲	
自動(手動)遠隔操作型	
5,000リットル/分(マスト上)	1基
自動(手動)遠隔操作型	
5,000リットル/分(操舵室頂部)	2基
自動(手動)遠隔操作型	
3,000リットル/分(船首上甲板上)	2基
放水口 65ミリ	12口
吸水口(救難用) 90ミリ	4口
自衛噴霧ヘッド	8口
照明等	2基
探照灯 1kW	3基
投光器 300W	4個
無線機	
固定用 10W・6ch実装	1式
携帯用 1W・6ch実装	1式
船内指令装置	1式
船内電話装置	1式
その他	
モニターテレビ(カラー)	2台
救助ボート	
(全長3.80m×全幅1.62m×深さ0.58m)	
船外機 25PS	1基
電動式救助リフタ	1基
救急救助用資材	1式
潜水用具	2式
救命胴衣	23着
オイルフェンス巻揚装置	1式
ダビッド(吊上げ荷重約200kg)	1基

特 長

*活動範囲の拡大

吃水線を約1.7メートルとし、水深の浅い場所でも活動が可能である。

*機動性の確保

高速ディーゼルエンジンを搭載して、最高速力を約20ノットとし、機動性を確保した。

*高所放水

吃水線上約10メートルの位置に泡放水砲を設置し、大型船舶火災の消火が可能である。

*航行放水

主機関3基を設け、両舷機により消防装置を駆動し、中央機は可変ピッチプロペラを駆動することにより、航行しながら有効な放水が可能である。

*流出油拡散防止

流出油処理剤放射装置の装備により、流出油の拡散防止が可能である。

*救助用資材の装備

小型救助用ボート、電動式救助リフタ及び潜水器具を搭載し、人命救助活動にも有効である。

*救急用資材の装備

救急用資材を搭載し、救急活動にも有効である。

*操作性の向上

操舵室周囲の視野を広くとれるよう配置し、操作性の向上を図った。

*省力化

操舵室内及び機関室内に放水指示盤を装備し、ポンプの駆動、放水主要バルブの開閉、放水砲の角度等の操作が行なえるよう省力化を図った。

起	工	平成元年8月18日	設	計	(財)日本造船技術センター
進	水	平成元年11月28日	施	工	横浜ヨット株式会社
竣	工	平成2年3月2日	消	防機器	深田キディ株式会社

発行 川崎市消防局

川崎市川崎区南町20-15 電話044-244-8351(代表)